

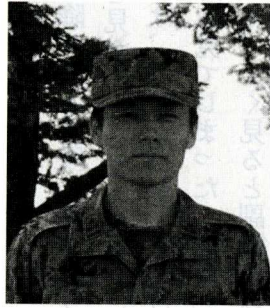


部隊たより

第十二施設群

岩見沢駐屯地

第十二施設群の紹介



第1科長
1等陸尉

千 葉 勇

一 はじめに

私は、第十一施設大隊に二等陸士として入隊、平成十六年幹部に任官し、第十二施設群で小隊長、群運用訓練幹部、中隊長として勤務、平成二十五年八月より群本部第一科長として勤務

している。既に一年が過ぎるが、末廣群長要望事項である「プロとして徹底的に考え抜け！ やり抜け！」を胸に群長の統率を支えているところである。

今回「部隊たより」に投稿する機会を得たので、この愛すべき我が第十二施設群及び岩見沢駐屯地を紹介する。本年度群創立三十九周年、駐屯地創立六十一周年を迎えた。

二 部隊の沿革

昭和二十七年十一月 金沢駐屯地において独立第五三二施設大隊編成完結

昭和二十八年 二月 第五三二施設大隊 岩見沢駐屯地へ移駐

九月 岩見沢駐屯地業務隊発足

昭和二十九年 七月 第一〇二施設大隊へ改称

昭和五十一年 三月 第一〇二施設大隊から第十二施設群に

改編

平成 八年 三月 第三〇二坑道中隊が新編され、現在の

体制

三 岩見沢市について

北海道岩見沢市は、夕張山地、増毛山地、後志山地に囲まれる石狩平野東部に位置している。道内有数の豪雪地帯で、シーズンに累計八割近い降雪量があり、平成二十四年には、連日の記録的な降雪により、観測史上最も深い二百八センチの積雪を記録した。

市の人口は約九万人、面積約四百八十一平方キロであり、主要産業は農業。特に米、タマネギ、小麦は道内でも有数の産地である。また、寒暖差の大きい気候が果樹の栽培に適しており、ワイナリーの設立も数多く見られ、地域色溢れたワインの味を楽しめる。

四 岩見沢駐屯地所在部隊等

駐屯地基幹部隊である第十二施設群を始め、北部方面後方支援隊第一〇一施設直接支援大隊第二直接支援中隊、岩見沢駐屯地業務隊、第三二七会計隊、第三二四基地通信中隊岩見沢派遣隊、第一二〇地区警務隊岩見沢連絡班、北部情報保全隊岩見沢情報保全派遣隊、自衛隊札幌地方協力本部札幌地域援護センター岩見沢分室と八〇部隊が駐屯しており、約四百五十名が勤務している。駐屯地の面積は約三十四万二千平方メートルであり駐屯地に隣接する孫別演習場は、約八十三万七千平方メートルで中隊規模の練成に適している。

五 群の特性

第十二施設群の編成は、本部管理中隊、四〇施設中隊（うち一〇中隊は釧路駐屯地に所在）、施設器材中隊、坑道中隊の七

〇中隊である。機能別化改編がなされていない最後の汎用施設科部隊である。

昨年八月、末廣群長が東方総監部訓練課長より着任以来、教育訓練に対しては特に力を入れており、あらゆる隊務を総合一体化して任務遂行能力の向上に努めている。

我が施設群は攻撃支援、防御支援といった施設作業のほか、矢白別演習場整備を担任していることから交通作業にも高い練度を誇り、その成果は災害派遣、国際貢献の場で十分に発揮されている。災害派遣は、創隊間もない頃の雨竜郡妹背牛の豪雨による災害派遣を皮切りに全四十八件。最近では平成二十四年の豪雪において、昼夜を問わず二十四時間態勢による除排雪と独居老人宅の除雪等を三日間連続で実施し、民生の安定に貢献している。もちろん、平成七年の阪神・淡路大震災、平成二十三年の東日本大震災においても群主力を派遣し、献身的救援活動を実施した。国際貢献は第二次カンボジア施設大隊派遣以来、全ての活動に要員を派遣しており、延べ派遣人員は四百名を超える。最近ではハイチ救援隊、南スーダン派遣施設隊に各二回派遣しており、現在も南スーダン共和国に要員を派遣し同地の平和と安定に貢献している。

戦技では北部方面施設隊内でスキー競技会三連覇中であり、特に昨年はスキー上位十傑を群が独占し、冬季戦技完全優勝を遂げたほか、持続走優勝、射撃優勝と圧倒的な強さを誇る。

目下の焦点は、北部方面隊の道場化を見据え、総監から直接命じられた矢白別演習場の整備であり、一般訓練と並行して精

